

- ①利用者情報を居室で入力し、事務の効率化と正確な情報を記録
- ②介護の方法を映像化し、職員のスキルアップとケアの統一化を実現

法人名：社会福祉法人 光輪会
事業所名：障害者支援施設 石踏の里

課題

①利用者に関する業務記録は、職員が居室からケアスタッフルームに移動してパソコンに入力しており、正確な情報を記録し事務の簡素化を図るために、居室で直接入力できる仕組み作りが必要。

②職員のスキルの差により、利用者へのケアが統一されていないことが課題。



ICT機器 導入

導入機器名
(タブレット(iPad
mini))

成果

①量的な効率化
利用者に関する業務記録が、直接居室で入力できるため、事務の効率化と正確な情報を記録できるようになった。

②業務の質の向上
介護の方法・事例をマニュアル化（映像・音声で記録）して現場で確認できるようになったため、職員のスキルアップとケアの統一化・均一化が図られた。



業務効率化のステップ

介護業務の現状・問題点を各自洗い出して、さらに、介護主任会議において、①利用者の業務記録の効率化を進める必要がある、②職員間にスキルのばらつきがあり、均一なケアができていない等の問題点を抽出し、これを解決するためには、タブレットを使用することが最も効果的との結論に至った。

職員の声など

【良かった点】

- ①場所を問わずどこでも入力できるので、作業の効率化に繋がっている。
- ②画面をみて、その場でケアの見直し・確認ができる。

【悪かった点】

- ①少し重い（常時持ち運びが大変）

【今後の課題・その他】

- ①今、紙媒体で作成しているものを、タブレットで活用できるよう、施設独自のカスタマイズされたソフトが欲しい。

